



現状の課題

吹田キャンパスの門ならびにその周辺は、地域社会に開かれたキャンパスに相応しい景観を呈しているとは言えない。特に千里門は、歩行者や車両の主要な玄関口であるが、調整池、狭隘な歩道、自動車のサービス路のために、殺風景な環境となっている。また、GSEコモン・イースト竣工後は、南側から東側かけたオープンスペースがアーバニティのある広場となることが望まれるが、現状では、東側の鬱蒼とした植栽が存置されたままである。

そこで、以下の整備を実施することにより、千里門からGSEコモン東側に連続するエリアを、誰にも開かれた、親しみのある外部環境に整備する。

計画の方針

1. 誰にも開かれたアプローチ空間

- ①千里門を広場化することにより、千里北公園と景観の一体化を図る。
- ②広場、ゆるやかな階段、スロープ、エレベーターなどを組み合わせることにより、誰に対しても気持ちよく移動できる環境とする。
- ③既存の植栽を整理し、見通しのよい開放的な空間とする。また、警備員詰所のデザインと位置を改善し、総合案内所としての役割を持たせることにより、わかりやすいエントランスとする。
- ④調整池を人工地盤で覆うことにより、来訪者を最初に受け止める広場とする。



A案 南西方向からの鳥瞰写真

2. アプローチ空間における3案の可能性

① A案 大階段タイプ

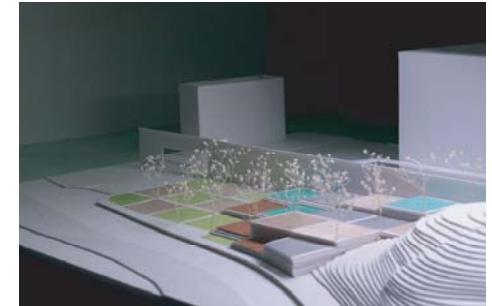
広くゆったりとした階段による、風格のあるアプローチ空間、階段によるエントランス性の明示

② B案 雛壇広場タイプ

地形に沿ったテラス状広場の連続、イベントなど幅の広い利用に対応

③ C案 自然再整備タイプ

既存の植栽の再整備・充実による、やさしいアプローチ空間、開発前の地形の再現



B案 南方向からの鳥瞰写真

3. アプローチ空間のデザイン（東西に連続する壁）と 一体となった門の整備。

4. オープンスペースネットワークの形成

千里門アプローチ空間からGSEコモン東側に連続するエリアの植栽を整理し、人が集まり、憩うことのできる広場とする。



C案 西方向からの眺め

5. 駐輪場・サービスヤードの充実と景観への配慮

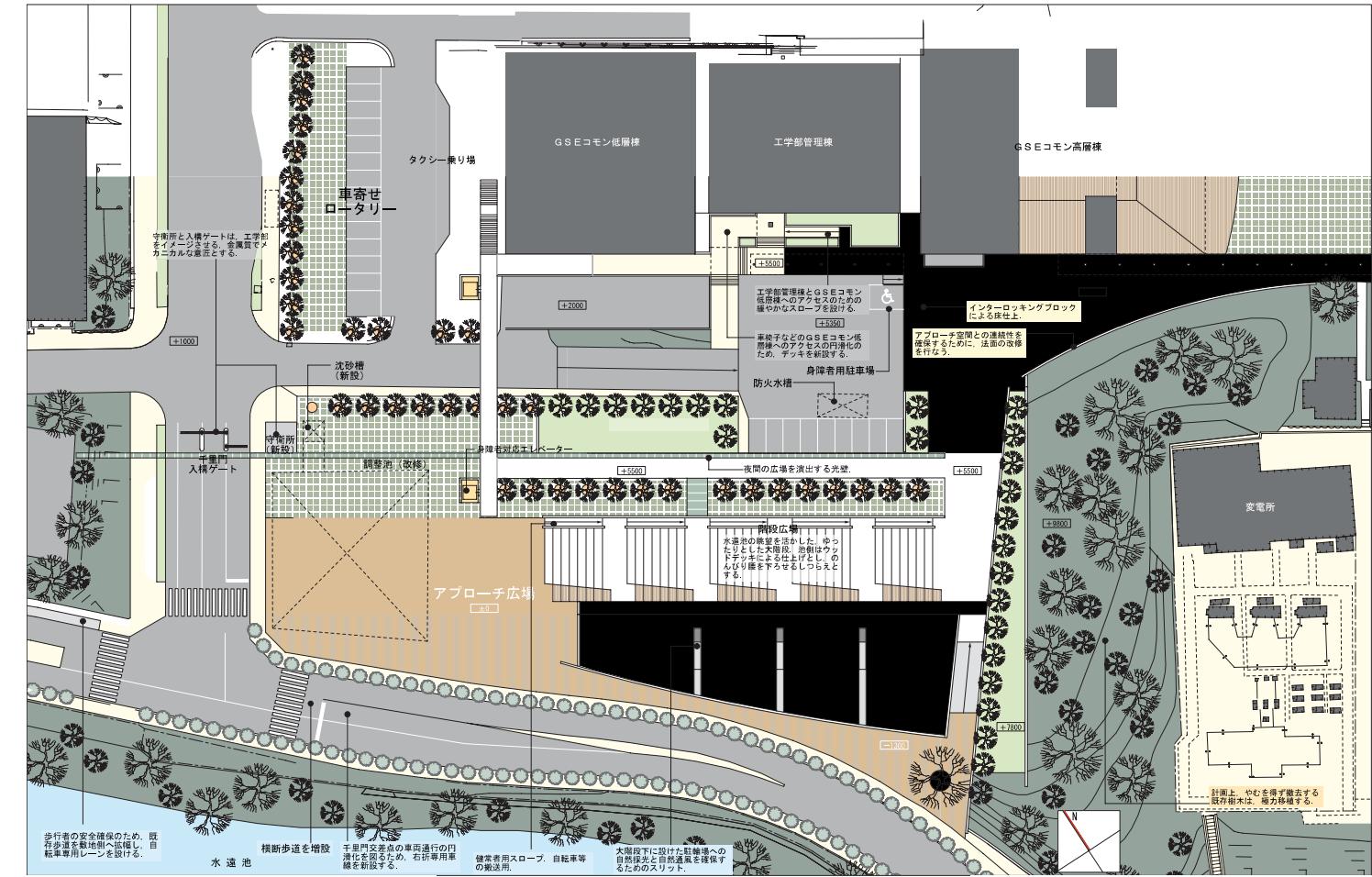
GSEコモンサービスヤードと歩行者アプローチ空間を東西に延びる壁面で分ける（アプローチ空間からのサービスヤードへの直接的な見通しを避ける）。

6. ロータリーの整備

将来、GSEフロント用地を自動車用ロータリーに転用し、バス、タクシー、自動車の乗降場所を集約する。車寄せを確保し、自動車来訪者のための表玄関とする。



GSEコモン・イースト東側の
オープンスペース



A案配置図



B案配置図